

# 地歴問

## 地理歴史

### 令和5年度(前期)

#### 注意事項

- 1 「解答はじめ」というまで、この問題冊子を開いてはいけません。
- 2 問題は1冊(本文13ページ、下書用紙2枚)で、解答用紙は1枚です。下書用紙は問題冊子の中に挟み込んであるので、引き抜いて使っても構いません。なお、問題冊子と下書用紙は持ち帰って構いません。
- 3 すべての解答用紙に受験番号を書きなさい。なお、受験番号は、次の要領で明確に記入すること。

(例) 受験番号90001番の場合 → 

9	0	0	0	1
---	---	---	---	---

- 4 1) 世界史, 2) 日本史, 3) 地理,  
以上3科目のうちから1科目を選んで答えなさい。さらに、選択科目の番号を受験番号の隣の欄に書きなさい。

(例) 2) 日本史を選んだ場合 → 

					2
--	--	--	--	--	---

- 5 解答は、解答用紙の所定の位置に横書きで書きなさい。他のところに書いても無効になることがあります。また、字数などの指示がある場合は、その指示に従って書きなさい。なお、字数制限がある場合、算用数字及びアルファベットに限り、1マスに2文字入れることができます。それ以外の句読点や問題番号には1マスを使用すること。ただし、例えば「問1」ならば「1」とのみ書いても構いません。なお、問題番号は問題ごとに指定された解答字数に含めます。

(例) Iの「問1」の場合 →

I 

1	.	.	.	.	.	.	.	.	.

## 世 界 史

I ジャンヌ・ダルクの活躍によっても有名ないわゆる英仏百年戦争(1337～1453年)を、イギリスとフランスという二つの国家間の戦争と捉えることが必ずしも適切ではないとすれば、その理由は何か答えなさい。また、この戦争が結果的にフランス王国にどのような変化をもたらしたかを、上述の理由と関連付けて説明しなさい。(400字以内)

II 次の地図を見て、問いに答えなさい。



問い 1963年、アフリカ統一機構(OAU)が創設された。しかし、地図中のAとBがOAUに加盟したのは、それぞれ1975年と1980年であった。OAU加盟が10年以上後となった経緯について、AとBの内外の状況に言及しつつ、説明しなさい。その際、AとBそれぞれの宗主国と独立後の国名を明記すること。(400字以内)

Ⅲ 次の文章を読み，問いに答えなさい。(400字以内)

著作権保護の観点から、公開していません。

上海 1923年1月26日

(深町英夫編訳『孫文革命論集』より，一部改変)

問い 下線部のような情況に陥った歴史的経緯を説明した上で，この声明がなされた時期の両国関係の変化が中国に与えた影響を論じなさい。

# 日 本 史

I 次の文章を読んで、下記の問いに答えなさい。(問1から問5まですべてで400字以内)

江戸時代の儒学者・経世家である (a) は著作『経済話』において以下のように述べている(原文の表記を改めている)。内容をふまえて解答しなさい。

著作権保護の観点から、  
公開していません。

問 1 (a) に入る人名を記しなさい。

問 2 経世論を朱子学および荻生徂徠の学問とそれぞれ関係づけて説明しなさい。

問 3 下線部(b)に関して、当時幕府の刑事司法で用いられていた法の名称を記し、説明しなさい。

問 4 下線部(c)に関して、掛屋と札差について説明しなさい。

問 5 (a) の著作にも影響を受けながら長州藩の藩政改革を行った人物の名前を記し、改革の内容を説明しなさい。

Ⅱ 次の文章を読んで、下記の問いに答えなさい。(問1から問4まですべてで400字以内)

日本において新聞は、幕末開港以降の外国新聞の翻訳からはじまった。明治はじめには活版印刷技術の発展などによって、都市部を中心に日刊新聞が創刊された。明治期の新聞は、政治評論を中心として西洋近代思想や啓蒙思想を広める役割をもった大新聞と、瓦版の伝統を受け継ぎ娯楽記事を中心とした小新聞に分化していた。また、政府との間で対立し、新聞紙条例で厳しく取り締まられながらも、農村部など全国各地で新聞が創刊され拡大した。加えて、政府の国内外の政策について、激しく意見がかわされ、特に対外戦争に関して、賛成・反対の立場で論戦を行うなど、紙面をにぎわした。

第一次世界大戦以降、発行部数で100万部を超える新聞が登場するとともに、総合雑誌や週刊誌が新たに創刊された。ラジオの登場もあわせてマスメディアが発展したのである。満州事変期には、中国各地での日本軍の戦闘行為に関する記事が新聞に連日掲載されるようになった。人々の戦意高揚、戦争熱をあおる行為に新聞などのマスメディアが加担することとなった。

問1 森有礼を中心に洋学者らによってつくられ、雑誌を発行するとともに啓蒙主義の普及に大きな役割を果たした団体の名前を述べなさい。

問2 明治初期に新聞紙条例が制定された背景について、当時の政治状況をふまえて述べなさい。

問3 日露戦争において、当時の新聞がどのような立場で政府を擁護、批判したのか、代表的な新聞をとりあげながら述べなさい。

問4 日中戦争の全面化以降、政府は新聞、雑誌などマスメディアとどのような関係を持ったのか、戦時体制とのかかわりから述べなさい。

Ⅲ 次の文章を読んで下記の問いに答えなさい。(問1から問5まですべてで400字以内)

太平洋戦争の末期の1945年3月26日、アメリカ軍は沖縄戦を開始し、4月1日に沖縄本島へ上陸した。これに対して日本軍は、本土決戦の準備のための時間をかせぐため、持久戦に持ち込んだ。男子中学生も兵士として動員され、①と呼ばれる部隊が編成された。民間人を巻き込む激しい戦闘の結果、6月末までに現地の日本軍は壊滅し、アメリカ軍に占領された。

9月2日に日本が正式に降伏した後も、沖縄は本土とは別にアメリカ軍の直接統治の下に置かれ、さらに1952年4月28日にサンフランシスコ平和条約が発効し、<sup>(b)</sup>日本が独立を回復した後も、沖縄はアメリカの統治下に残された。国際的な冷戦を背景として、アメリカは沖縄で恒久的な基地建設を進めた。「銃剣とブルドーザー」と呼ばれる強制的な土地接収に反発し、1956年には住民による「島ぐるみ闘争」が起きた。

こうしたなか、1960年4月28日に沖縄県祖国復帰協議会が結成された。1965年にアメリカがベトナム戦争への軍事介入を本格化させると、その下で大きな負担を強いられた沖縄では祖国復帰と基地撤去を求める運動が高まった。一方、佐藤栄作内閣は、<sup>(c)</sup>ベトナム戦争でアメリカに協力しつつ、<sup>(d)</sup>「核抜き・本土なみ」の沖縄返還を目指した。そして、1971年6月17日に沖縄返還協定が調印され、翌年5月15日に沖縄の日本復帰が実現した。

沖縄返還の過程で核兵器を「持たず、つくらず、持ちこませず」という②が国の方針となったが、撤去された核兵器について、有事の際の再持ち込みを認める約束が密かに結ばれた。また、沖縄には広大なアメリカ軍基地が残され、事故、公害、犯罪といった多くの問題が起きている。沖縄の基地負担をめぐる問題は、日本全体で向き合わなければならない重要な課題として、現在もなお残されている。

問1 ①と②の空欄に入れるべき適切な語句を書きなさい。

問 2 下線部(a)に関して，戦況の悪化を受け，本土決戦の準備と並んで日本政府が進めた外交交渉について説明しなさい。

問 3 下線部(b)に関して，サンフランシスコ平和条約の締結をめぐり，日本国内でなされた批判について説明しなさい。

問 4 下線部(c)に関して，1968年に核爆弾を搭載可能な戦略爆撃機 B52 がベトナムに出撃するために離陸した後に墜落し，爆発・炎上する事故が発生した。この事故が起きたアメリカ空軍基地の名称を書きなさい。

問 5 下線部(d)に関して，佐藤栄作内閣の時期，大都市圏で革新自治体が数多く成立した経済的・社会的背景について説明しなさい。



## 地 理

### I 都市農業に関する次の文章を読んで、問いに答えなさい。

世界各地の都市では、近郊農業だけでなく、いわゆる市民農園や、都心近くに開設された菜園、土を入れた容器を並べての食料生産など、さまざまなかたちで農業が行われている。空き地などを不法占拠<sup>(1)</sup>しての耕作、あるいは都市計画のなかに正式に位置づけられていない農業のように、その従事者の貧困削減や栄養改善が期待されるのにもかかわらず、取り締まりの対象とされる場合もある。

日本では、都市農業の継続を図り、その多様な機能を発揮させることによって良好な都市環境を生み出すために、2015年に都市農業振興基本法が制定・施行され、農林水産省に担当室が設けられた。また、国土交通省は都市農業・農地が良好な市街地環境を形成するものと考え、その保全・活用を図りつつある。そして、居住を促進・誘導しようとする区域の外にある一定規模以上の医療施設、社会福祉施設<sup>(2)</sup>、教育文化施設、商業施設を、都市機能誘導区域へと移転し、跡地の緑地等への整備を支援するなど、コンパクトシティの形成を進めようとしている。

都市農業が社会問題を解決することへの期待も示されている。カナダ・トロント近郊のある地区では、近年、海外出身者が過半数を超え、彼らが安く手に入るファーストフードなどの食品に依存して健康を害しやすいため、そこを“食の泥沼”と呼ぶ人もいる。このため、住宅の裏庭やコミュニティ農園で故郷の食材を栽培し、自給する住民が現れ、それを支援する活動も始まった。さらに、在来植物についての先住民の知識を尊重し、その知識によって栄養問題の改善を図る動きもある。トロントでのこうした活動の関係者は、次のように述べている。

「フィリピンからの移民のなかで、土や農具に触れるのはつまらないと言う人などいませんでしたよ。それは食べ物という、社会と身体の問題を解決しようとする試みでした。それは、母親と子どもの交流でもあり、故郷で食べていた農作物を育てることであります。私は人々の好奇心に働きかけて適切な食を促したかったのです。」

(Bessho ほか, 2020, Sustainability 2020(12)より翻訳・改変)

2019年に東京都・練馬区で開催された「世界都市農業サミット in 練馬」では、北米・欧州の都市での以上のような経験を踏まえて、都市農業が「社会的課題を解決し、公正で開かれた社会を創り出す」ものであることなどが宣言されている。

表 I—1 ウガンダ・カンパラ住民の耕地へのアクセス(2002~2004年)

著作権保護の観点から、公開していません。

注：土地所有率とは、住宅の建っている土地を自ら所有している住民の割合をさす。  
出所：Prain, G. ほか, 2010, *African Urban Harvest*. IDRC, Ottawa により作成。

問 1 都市農業を行う人々が下線部(1)の述べるような問題に直面することがとくに多いのは、たとえばウガンダ・カンパラについての表 I—1 が示す 4 つの住宅地のうち、どこであると考えられるか、丸番号で答えなさい。続けて、そう考えた理由を表 I—1 から得られる情報を用いて説明しなさい。(125 字以内)

問 2 下線部(2)が述べるような政策などによって都市農業が促されると、都市と地球環境の持続可能性はいかにして高まると考えられているのか、コンパクトシティ形成と関連させながら説明しなさい。(125 字以内)

問 3 下線部(3)について、都市農業が社会的課題の解決に役立つと考えられている理由を、トロントの例を用いながら説明しなさい。説明においては、移民が直面する問題の社会的な性格と、都市農業がそれをどのように解決しうるのかについて言及すること。(150 字以内)

## II 国際協力の経験者の講演を高校生や大学生が聞いた。経験者の発言をまとめた次の文章を読んで、問いに答えなさい。

A さん「私はアフリカでコミュニティ開発チームのスタッフとして活動してきました。現地では安全な生活用水を確保するため、インフラの整備が必要でした。活動先のケニアのナイヴァシャ湖周辺で盛んに行われている輸出向けの花弁産業(バラ栽培)<sup>(1)</sup>には、多くの女性が従事していました。外資の流入により福利厚生が整った花卉関連会社へ雇用の機会を求めて、全国からこの地域に多くの人々が流入してきました。急激な社会の変化にインフラの整備が追いつかず、劣悪な環境のスラムで生活をする人もいました。また、大量の農業用水が必要でしたが、環境に配慮した方策が求められていました。Bさんが訪れたラテンアメリカは、いかがでしたか。」

Bさん「私はラテンアメリカの現場で日本の技術を伝えてきました。最初に赴任したのはボリビアです。ペルー南部からボリビアに至る中央アンデスには、東西両山系の間に細長い凹地が形成されています。この地域は降水量が少ないので内陸河川となり、淡水湖であるチチカカ湖や氷期の湖が干上がったウユニ塩原(ウユニ塩湖とも呼ぶ)<sup>(2)</sup>などがあり、新たな資源の開発が計画されていました。次の赴任先はパナマでした。太平洋と大西洋(カリブ海)をつなぐ約80kmのパナマ運河は、<sup>(3)</sup>2016年6月、9年間にわたる拡張工事を完了し、日本向け液化天然ガス(LNG)船も通行可能になりました。運河は2つの大陸の地峡に建設された世界を結ぶ海上物流ルートの要衝となっているのだなと思いました。私はこれからも経済社会の持続的な成長のために、日本の技術を役立てる協力をしたいと考えています。」

問 1 アフリカ地域とラテンアメリカ地域における、流域面積が地域内で最大である河川名をそれぞれあげ、その大河周辺の環境への開発の影響を比較し、2地域の開発目的の違いとグローバルな共通の課題を説明しなさい。2つの河川名には下線を引くこと。(100字以内)

問 2 ①下線部(1)に関連して、ナイヴァシャ湖周辺で当該産業が発展した要因と、その後発生した環境問題と対策について説明しなさい。②下線部(2)に関連して、ウユニ塩原周辺の地下に埋蔵されているレアメタル(希少金属)の鉱種と主な用途を答え、この国独自の資源開発の状況を説明しなさい。解答は①…②…。としなさい。(150字以内)

問 3 下線部(3)に関連して、スエズ運河も2015年に拡張工事が完了している。2016年に初めてパナマ運河を通過した日本向けLNG船の出航国を答えなさい。1マス分空け、この国から運河を通航して輸入することは日本にどのような利点があるか、説明しなさい。続けて、表Ⅱ—1、2は両運河の2007年と2017年の通航状況を示したものであるが、両運河の拡張によって通航貨物はそれぞれどのように変化しているか、論じなさい(150字以内)

表Ⅱ—1 通航船の隻数と一隻あたりの輸送能力

著作権保護の観点から、  
公開していません。

\*積載できる貨物と燃料などの総重量。

出所：国土技術政策総合研究所資料 No.1164，2021年より作成。

表Ⅱ—2 運河通航貨物の世界海運全体に対するシェア(単位：%)

著作権保護の観点から、  
公開していません。

注：ここでのシェアは、重量または個数により計算したものである。

出所：国土技術政策総合研究所資料 No.1164，2021年より作成。

### Ⅲ 次の文章を読んで、問いに答えなさい。

子どもにとって、遊ぶことは重要である。しかし大人からみた場合と子どもたち自身からみた場合とで、子どもの「遊び」の意味は大きく異なる。それはたとえば「遊び場」の認識にもあらわれてくる。大人は、子どもが遊ぶとき、何かしらの形態をともなった活動を行っていると考えがちである。そのため公園整備計画でも、子どもの遊び場をそうした活動形態に合わせて準備することが多い。他方、子どもたちが実際にどこで遊んでいるかといえ、大人が遊び場として準備した場所でないことが多く、そこでやっている活動も、大人からみると「何もしていない」ように映るものが多い。

ところが近年、子どもが家の外で行う余暇活動について、より組織化されたもの<sup>(2)</sup>を高頻度で実施するようになってきているというデータもあり、遊び本来の無計画さや無秩序さが失われてきているのかもしれない。公園などを整備する際に子どもの意見を取り入れた参加型の計画が行われる例もある。しかし、一般に子どもの遊びを<sup>(3)</sup>計画と秩序のなかに取り込むことには、注意が必要だろう。

問 1 下線部(1)について、大人が想定していない場所が子どもの遊び場となる事例として、日本国内ではどのような場所が考えられるか。具体的な例を一つ取り上げ、都市構造の変化によって子どもの遊び場がどのように変質してきたか、説明しなさい。なお、「子ども」は18歳未満を指すこととする。(100字以内)

問 2 下線部(2)について、表Ⅲ—1は、ノルウェーで6歳から12歳を対象に行われた調査の結果である。1回目の調査(2005年実施)と2回目の調査(2013年と2014年にまたがって実施)で、ノルウェーの子どもの余暇時間の使い方はどのように変化したか。また2回目の調査時点で、組織的活動、外遊び、友人訪問の3つの余暇時間の使い方が相互にどのように関係していると考えられるか。それぞれ説明しなさい。なお、「組織的活動」には、スポーツクラブ、音楽教室、ユースセンターでの活動などを含む。(150字以内)

問 3 表Ⅲ—2 は、インドネシア・ジャカルタ中心部にある性格の異なる住宅地から 2 つの例を選び、小学生の遊び場と、小学生の近隣との関わりを示したものである。この表から読み取ることのできる両住宅地の違いを、居住環境の違いと関連づけながら説明しなさい。続けて、下線部(3)が述べる計画と遊びの関係について、このジャカルタの事例からいえることを論じなさい。(150 字以内)

表Ⅲ—1 ノルウェーにおける子ども(6 歳から 12 歳)の余暇活動

著作権保護の観点から、公開していません。

注：B は 2 回目調査の 2013～14 年についてのみ。

出所：Nordbakke, S., 2019, Children's Geographies 17(3)により作成。

表Ⅲ—2 インドネシア・ジャカルタ中心部における小学生の遊びと、近隣との関わり：各項目の回答割合(2018 年)

著作権保護の観点から、公開していません。

注：「好きな遊び場」は、家の外と中の両方を回答した場合があるため合計が 100 とならない。

出所：西川紘未ほか，2020，こども環境学研究 16(1)により作成。